

週刊 タバコの正体

前回、喫煙者は味や匂いに鈍感になっている事を紹介しました。タバコに含まれる有害物質が、味を感じる舌と匂いを感じる鼻の機能にダメージを与えているからでしたね。そして気の毒ですが、喫煙者たちは自分の味覚や嗅覚が鈍感になっている自覚はありません。

たとえば、タバコを吸った直後は髪の毛や服や指先に煙のニオイがかなり残っているので、周りの人がタバコくさいのを感じていても、本人は全く気付いていない事がほとんどなのです。それに加え、じつは喫煙中にも次のような同様の現象が起こります。

タバコの煙は味覚や嗅覚を鈍感にさせ食事のおいしさを奪ってしまうのに、ほとんどの喫煙者は食事中にタバコを吸いたがります。わざわざ料理の風味を打ち消すような行為なのですが、料理を前にしてタバコを吸っている姿には、そんな意識がないように見えるうえにタバコのニオイさえも感じていないかのように映ります。

しかし、そんな本人には気にならないタバコのニオイは周りの人にはとても迷惑なニオイとなります。せっかくの料理の風味が台無しになるうえに、不愉快な思いが募り穏やかに食事をすることができなくなりますからね。



目黒区「タバコ対策」サイトから

さらに見方を変えて、料理を作った人の立場に立ってみましょう。おいしく食べて喜んでもらうために精魂込めて、手間暇かけて作った料理にタバコの煙が漂う事をどう感じるでしょうか。タバコの煙が人間の味覚と嗅覚を鈍らせる事を知っていれば、食事中に喫煙するのは料理をしてくれた人に対する敬意の気持ちに欠けるすごく失礼な事だと思えないでしょうか。



イメージイラスト／ MDR・Hide

楽しく笑顔で食事をする事は、毎日の生活には欠かせない大切なひと時です。その場面に、おいしく食べるのを妨げるタバコは必要でしょうか。

タバコを吸い始める人がいなくなれば、毎日の食事にタバコが登場することはなくなるでしょう。どんな食事の場面でも、タバコの煙もニオイもないのが当たり前になって欲しいですね。